

手足の不自由な子どもたち

はげみ

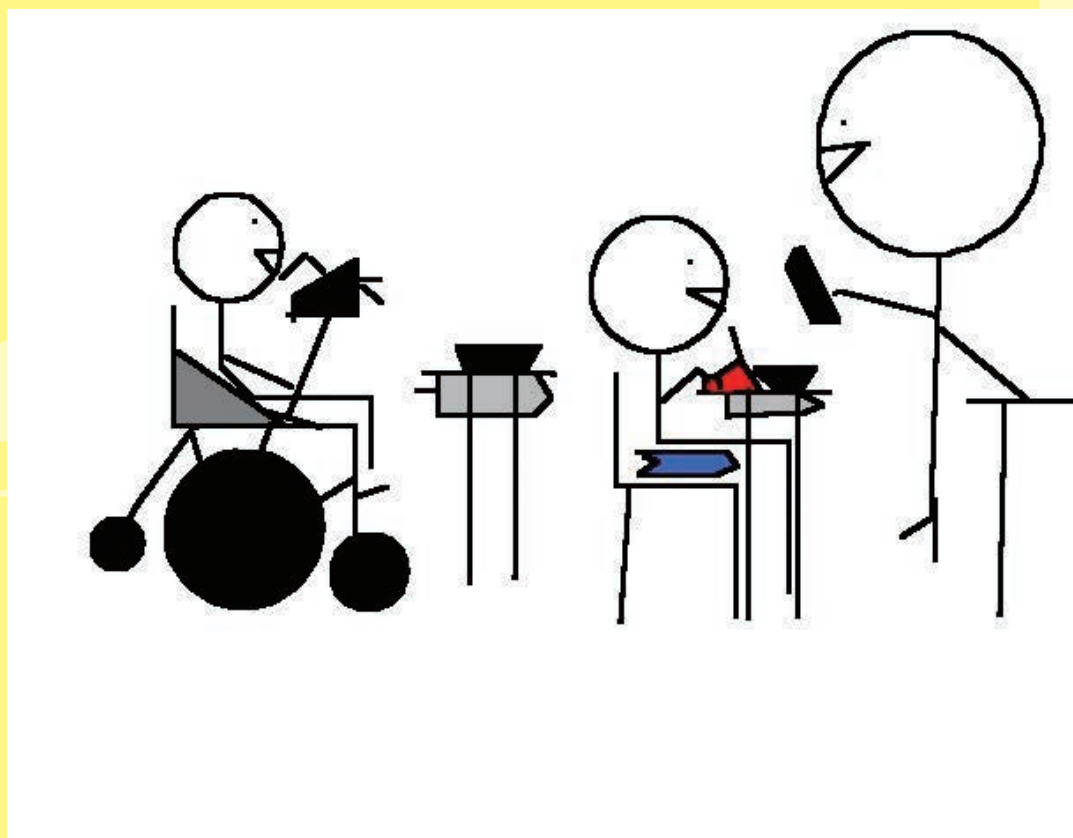
令和元年度 / No.386

6/7

June—July

特集 シンプルテクノロジー

～アナログな装置やスイッチ1つの簡単な機器などで活動を広げる～



第37回肢体不自由児・者の美術展入賞作品「学校」

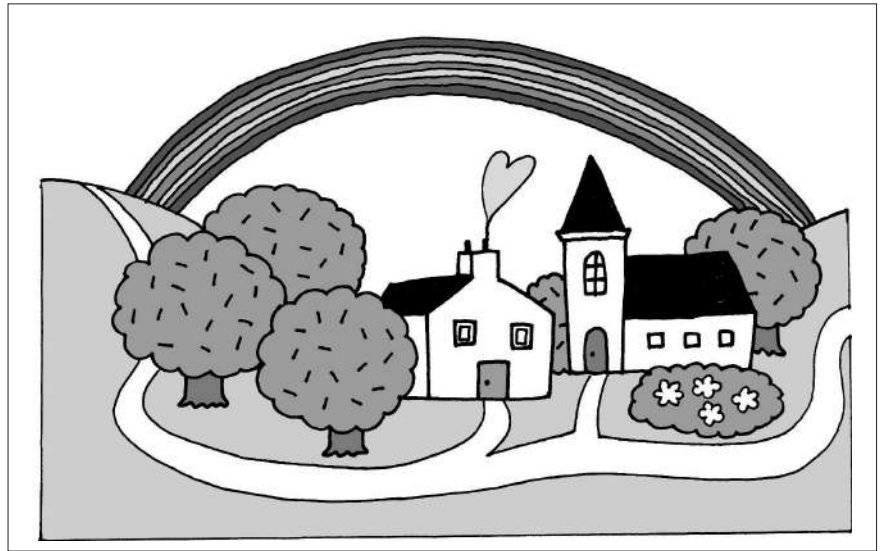
山本 湧貴 (10歳)



はげみ

令和元年度
6・7月号

はげみ通巻386号



目次

広場	シンプルテクノロジーとは……………	金森 克浩… 2
特集	シンプルテクノロジー ～アナログな装置やスイッチ1つの簡単な機器などで活動を広げる～	
解説1	シンプルテクノロジーとは?……………	福島 勇… 4
解説2	身の回りにあるものを活用して簡単に作れるシンプルテクノロジー ……………	杉浦 徹…15
実践1	子どもが楽しめる楽器演奏 1 作ってみよう、鳴らしてみよう……………	川村 龍子…22
	2 シンプル楽器の活用事例……………	鹿角 昌希…26
実践2	ローテク教材を活用した子どもへの支援……………	山口 拓哉…29
実践3	キッズバリアフリーフェスティバルにおけるシンプルテクノロジー ……………	下元 佳子…35
実践4	教材100連発! より……………	本田 祐介…39
実践5	コミュニケーションを豊かにする1スイッチVOCA……………	太田 直樹…43
実践6	「使う人たちとのコラボ」による「ものづくり」 ～「遊び心」と「生きる力」～……………	山本 肇・山本 淳子…49
実践7	77歳の現役女子高生が使うシンプルテクノロジー……………	菊地 直実…54
実践8	うえもん工場長が作るシンプルテクノロジー……………	坂上 茂…60
	今号の表紙……………	山本 湧貴…65



広場

「シンプルテクノロジーとは」

金森克浩

日本福祉大学

今回の特集号のテーマは「シンプルテクノロジー」としました。シンプルテクノロジーとはどういったものか、何を言うのでしょうか？

AAC（拡大代替コミュニケーション）研究の第一人者、中邑賢龍さんはAT（アシステイブテクノロジー…支援技術）を次の3つに分類して紹介しています。

- ①ノンテク
機器を使わずに音声やサインなどを使ったコミュニケーション技法
- ②ローテク
身近で簡単な機器やスイッチなどを使ったコミュニケーション技法
- ③ハイテク
コンピュータや情報通信機器などを使ったコミュニケーション技法

この中で、シンプルテクノロジーは2番目の「ローテク」

に当たるものです。電子情報機器などの高度な機能のあるものではなく、単機能で操作した入力と結果の出力の関係がわかりやすいものを言います。スイッチを押すとおもちゃが動き出すというような電子的なものもありますが、鉛筆を上手に持つことが難しい人のために、指にはめることでホールドできるようなQRリングのように、アナログなものも含まれます。

これらの機器の大切な点は、複雑な機能ではなく、目的とする活動がすぐに実現できるところです。



1. ICT時代の今にあえてICT以外を使う意味



さて、今はタブレットPCやスマートフォンが普及し、多くの人がそれらを通じてコミュニケーションをとるようになっていきます。その恩恵もあり、肢体不自由のある人の生活を豊かにするためのICT機器は広く普及し、多くの学校でも使われるようになりました。これらについて、中邑賢龍さんは「あるテク」と称して、既にあるテクノロジーが支援の必要な人に見えるようになってきており、安価で誰にでも使いやすく、ユニバーサルデザインのあるものを積極的に使おうと提唱しています。

さて、そのような流れの中でなぜICT機器ではないものが必要なのでしょうか？ICT機器を利用する上での課題に次のようなことが考えられます。

- ・機能が複雑で使いこなせない
- ・電源を入れられない場所では使えない
- ・コンピュータの画面だとわかりにくい

特に、障害の重い子どもたちのコミュニケーションで考えると、パソコンのモニター画面の中で動いているものは、認知しにくいといったことがあります。次のようなものがコンピュータの画面の中だけで可能でしょうか？

- ・スイッチを押してお母さんの肩を叩く
- ・扇風機を操作して花吹雪を飛ばす
- ・調理をする

もしかするとコンピュータに特殊な装置をつなげれば、これらもできるようになるかもしれませんが、とても複雑なものになってしまいそうです。そして、それらの操作

では、障害の重い人が自分がやったものだとして理解することも難しいと感じます。

「具体的にものが動く」活動はやはりシンプルテクノロジーとと言われるものの方がまだまだ得意なようです。

2. 豊かな発想が子どもたちを豊かにする

さて、前述のような理由から今回の特集では、沢山の方に協力してもらい、さまざまなシンプルテクノロジーのアイデアと実践を紹介しています。本誌を参考に、皆さんの学校や家庭の状況に合わせてシンプルテクノロジーを実践してみませんか。

大切なのは、子どもの生活が豊かになることです。そのためにも、豊富なアイデアが欠かせません。

「スイッチを押したら音が出る」という機器があったとして、あなたならどんなことを考えるでしょうか？「挨拶をする」だけではなく「人を呼ぶ」、「声に反応するおもちゃを動かす」などということもあります。ある学校では、音楽を流して、椅子取りゲームの進行役をスイッチ一つでやっていたそうです。シンプルテクノロジーは、使う人によって活かされる場合もつまらないものになってしまう場合もあります。この特集を読んで、是非豊かな発想を生み出してもらいたいと思います。

